NEWSLETTER HOKKAIDO－自治体学会

1996年3月　発行人　北海道自治体学会事務局　NO. 3

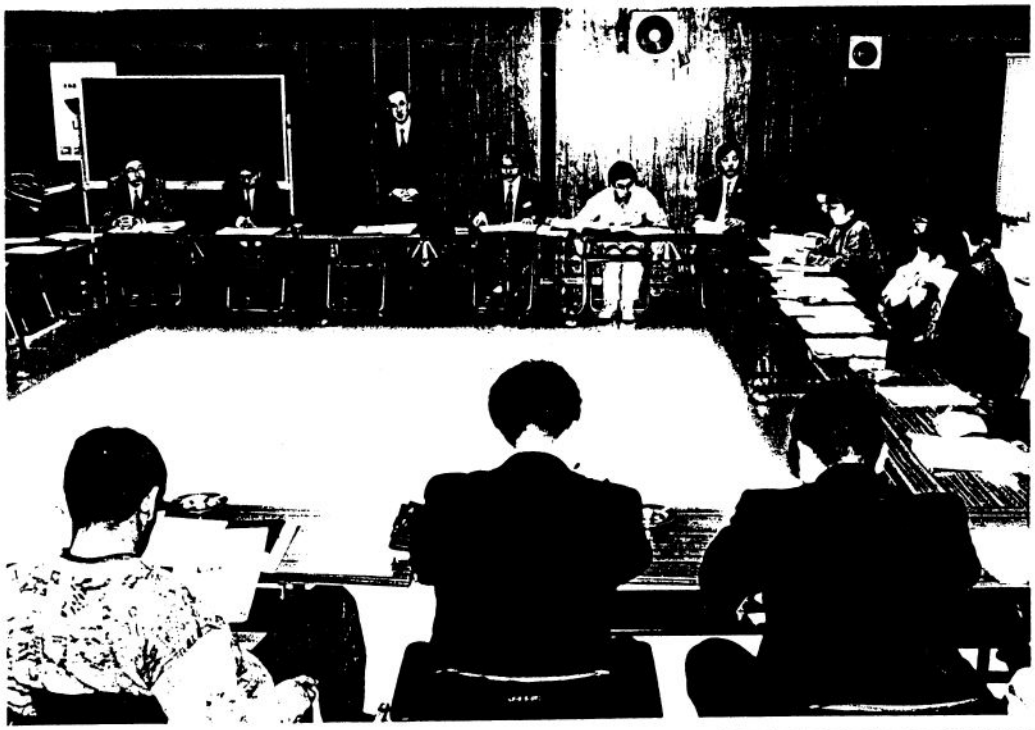
〒064　札幌市中央区南4条西17丁目　北星学園女子短期大学　内田研究室気付　011-532-2417（直通）

6月29日（土）・30日（日）に開催決定！

第10回自治体学会北海道フォーラムinしらおい

第１０回自治体学会北海道フォーラムｉｎしらおいは、6月29日（土）30日（日）緑あふれる初夏の白老町で開催されます。

去る１月２６日、昨年末からの２度の準備会を経て、５０名の現地実行委員会を設立しました。出席したメンバーたちは上坊寺実行委員長とともにフォーラムの成功を誓い合いました。



現地実行委員会の構成員は、まちの政策研究会の会員を中心として、町議会議員、主婦、日本青年会議所北海道地区協議会など様々です。また同フォーラムは、胆振・日高管内では初めての開催とあって伊達、室蘭、早来などからも参加組織され、連日のように会議が開かれています。

３氏が激励に来町！

第４回の現地実行委員会が３月２８日に開催されました。北海道自治体学会代表運営委員の森啓氏、川村喜芳氏、中島興世氏の３氏を迎え、「自治体学会の経過とめざすもの」「北海道内の自治体の動き」「市民と行政のまちづくり実践」などの話を聞きました。

席上、貴重な意見交換がなされ、現地実行委員会のメンバーたちは、本フォーラムの開催に向けて気運を高ました。

「フォーラムｉｎしらおい」では・・

フォーラムｉｎしらおいの理論と実践の交流テーマは、”市民と行政のパートナーシップ”です。

全国的な分権の流れの中、自治体や職員・市民の動きが活発です。その中で白老町の特徴を生かしつつ、市民主体を強調し、それぞれの活動をネットワークできる場として、このフォーラムを計画しており、今後のしらおいにおける展開も期待されています。また分科会では、①女性・子供の視点からのまちづくり②首長・議員のスタイル③美しい町・景観と市民のかかわり④農・漁業と商工業の結びつき⑤自治体外交⑥自主防災福祉のまちづくりなどが企画されており、分科会での活発な議論を期待しています。

”理論と実践の新しい出会いの場”

６月のしらおいは、牛肉まつりやヴイガの活躍にと、１年の内で最も活気にあふれる時。第１０回北海道自治体学会フォーラムはそんな白老町を舞台に、理論と実践の新しい出会いの場として熱い議論が繰り広げられます。２１世紀を目前にし、私たちは何を学び、何を実践していかなくてはならないのでしょうか？これからの北海道は、そして自分たちのまちはどうなるのでしょうか？

６月２９日・３０日”元気まち　しらおい”でお待ちしています。

北海道自治体学会フォーラムｉｎしらおい総務部会

～特集・自主研究グループ～

釧路まちづくり研究会の試みについて

発足：昭和５８年　会員：３４人（平成8年3月３０日現在）

本会は、昭和５８年４月、釧路市総合計画の策定にあたり市職員の若手で自主研究グループを発足させたことに端を発する。その後、次のとおりの変遷をたどる。

昭和６２年　帯広市、北見市とともに道東３市交流会議を開催。

昭和６３年　会報「クシロジラ」（釧路でゴジラの如く暴れようという意味を込めて。）を創刊。地元団体とともに釧路地域の母なる川である釧路川の流域関係者に集まっていただき、「釧路川会議」を開催。道東５市交流会議に参加

平成元・２年　自治体学会北海道フォーラムに参加。道東５市交流会議に参加

平成３年　全国自治体政策交流会議・自治体学会帯広全国大会のエクスカーション「釧路川悠久３０００年の旅」事業（釧路川カヌー下り）を実施。

平成５年　釧路の霧を逆手に利用して開催している「KUSHIRO霧フェスティバル」に協力し、以後毎年会員を派遣。

以上が平成５年までの会の活動状況の概略であるが平成６年が転機の年となる。

平成６年に自治体学会北海道フォーラムを開催し、開催準備の中から、何事も討論の過程が大切であり、まちづくりにおいても活発な討論の中からこそすばらしい創造が生みだされ、そこにまちに対する愛着が沸き起こることを実感した。これ以来、会の方針としてフォーラムのテーマでもある「まちづくりプロセス主義」を掲げ、活動している。また、大森東京大学教授の記念講演からは、まちづくりは「現地現場主義」に徹するべきであるという教訓をいただき、釧路まちけんにとって活動の転機となる重要な会議となった。

このフォーラム以後、会報「まちけん通信」として、クシロジラを復刊し、会の活動状況、会員の投稿、まちの情報などを掲載し、現在までおおむね月１号ペースで１６号を数えている。この会報発行の利点は、第１に会と交流のある個人や団体との交流である。会員外の方からの意見を掲載させていただき、意見交換の場としている。第２は会員の考え方の再認識である。会員相互の考え方は多様である。この多様性を認識し、尊重しながら活動をすすめる理解しあう場と考えている。

平成７年には「まちけんリカレント講座」として、加藤釧路公立大学教授による地域生き残り戦略を講演していただいたのを皮切りに、その後、地域経済人に２回にわたり講演していただき、釧路地域について討論している。

この間、北海道自治体学会政策シンポジウムに参加させていただき、松下法政大学教授の講演から「武蔵野市地域生活環境指標」を知り、これをヒントにし、地図に情報を落としたわかりやすい資料づくりをすすめることとした。この資料づくりは、まちけんリカレント講座の開催ごとに作成し、一定程度まとまった後に、この資料を冊子にする予定である。私たちは、この冊子で釧路の基礎情報を提供し、まちづくりの問題点を摘出する材料としたいと考えている。

ひるがえって地元釧路地域では、釧路管内市町村職員の交流会を標茶町多和平で約３０名の標茶町をはじめとする職員が集まり交流した。この交流会は、酒を飲みながら意見交換をする気取らないラフな場であり、人的ネットワークづくりの基礎的な場であるという考え方のもとに開催したものである。今後この交流会を都度開催し、釧路地域の自治体職員の連携を図っていきたいと考えている。このように私たちは、今後ともプロセスを大切にし、実践しながら考えていく会として活動していく考えである。しかし、まだまだ会の活動は緒についたばかりである。

最後に、みなさんのご支援を今後とも切にお願いして釧路まちづくり研究会の「試み」的活動の報告とさせていただきたい。

Morale'95

（月形町）

会員NO6モラール事務局長より指令あり。「自治体学会のニュースレターでモラールを紹介させてくれるから原稿作れ」　「エッ・・・」

私達は、地方自治に関する自主研究グループです。と本紙面で紹介させていただくには、大きな穴を掘って全員で入りたくなるような心境ではあるが、新たな決意を込める意味でも、せっかくの機会であるので私見も含め書かせていただくこととする。

ヤクバに勤め10年もたってくると、否応なしに仕事が見えてくる。「ヤクバの仕事ってこれでいいの？」「コウムインってこんなんなの？」「誰のための仕事なの？」数々の疑問が湧いて出てくるとともに酒の量は増え、髪の毛は減る。

酒を飲んでは仲間と議論をかわし（ジョウシの悪口？）、町民には「ヤクバっていいよね」「コウムインが安定してて一番いいよね」ってバカにされる。

やっぱりおかしい、役場の役割は何だろう、町の職員とは何だろう、何か勘違いしているんじゃないだろうか。自分の頭がおかしいのだろうか。ならば仲間も同じ位、頭がおかしいことになる。

仲間との議論は絶えることなく、しかも前進していく。が仕事は後退していく錯覚に陥る。

北大　森教授、神原教授、山口教授の講演を聴く機会を得、酒を酌み交わす。モヤモヤしていたものがしだいにはっきりとその姿を現す。

さらに地方自治土曜講座、道央圏町村職員政策研究会と多くの方々の話を聴くにつれ、やっぱりそうだよ！何か変だと思ってたんだ。自治体職員でしょ。市民でしょ。協働でしょ。

我々にとっては余程タイムリーな出会いに違いなかった。さらにいろいろな地域の自主研究グループが活躍されていると聞く。

さて、我々もあまり難しく考えず、できることから始めようではないか。そうだ、まずは会の名称だ。7人が集まり酒を飲み飲み知恵絞る。

自治体職員として、市民として、何が一番大切か。モラルとモラール、たしか初任者研修で大切なこととして習った記憶がある。言葉は似てるが意味は違う。モラール＝士気　今の我々にはモラールの向上が必要最大のテーマではないか。よし決まり、「Morale'95」

（Gメン75とは関係ない）

長～い説明になってしまったが、これが私達グループ（職員6＋市民1）の経過である。

モラール発足のきっかけとなった神原先生、初めての主催講演の講師に来ていただいた森先生、町教育委員会主催の「メンズカレッジ」の講師として来ていただいた山口先生の3氏には幾度も月形に足を運んでいただき、しかも勉強不足の私達に夜遅くまで付き合っていただき、紙面を借り、改めてお礼申し上げる次第である。加えて、自治体学会中島代表運営委員とももう一度酒を飲みたい心境でもある。（酒ばっかり飲むなよ～）

今後、自分たちの意識改革はもちろんのこと、そういう意識を持つ仲間を増やし、そして益々、自治体学会の会員皆さんの研究、実践、交流が深まり、新たな出会いが生まれ、心と体に元気が出ることを期待する。

すべてのモラールアップのために・・・

（少しフィクションになったかな～）

北海道自治体学会への期待
～フィールドを広げよう！～

辻　泰弘（運営委員・北海道庁）

今、北海道では、地域ごとの個性や資源を利用し、新しい地域づくりをしようと212市町村でいろいろな試みが行われています。こうした中で、自治体職員、市民、企業などが新しいパートナーシップをもとに、それぞれの立場でさらなる発展を求めていこうという動きがあります。

北海道自治体学会は、北海道という歴史的にも地理的にも特徴のあるフィールドで、自治体の職員、市民、企業、研究者、そういった人々が、自治体の「人材」として参加し、これからの行政をどう作り上げていったらよいのかを研究交流する場として、多くの皆さんの幅広い参加を求めています。

自治体職員も混迷しています。これまで通りの仕事の仕方が通用しなくなった時代。何が悪かったのか、必要なのは何かを考えて、自分自身のリストラを考えてみませんか。

行政課題は大きく変化しています。基盤整備や指導監督から参加型行政へ。こうした変化に対応するために、思いきり感性を磨いて、古い殻を打ち破ってみませんか。

市民感覚で自治体を育てたい。自治体に住む市民としてどういう参加の試みがあるのか。発展を目指すためにはどうしたらよいのか。こうした思いを地域や職域などいろいろなフィールドで働く人々と語り合ってみませんか。

情報コーナー

■ニュース・会報■

『まちけん通信16号』『まちけん通信17号』（釧路まちづくり研究会発行）

『地域づくりＨＯＴ情報ｉｎ北海道（1996年2月号～3月号）』（北海道庁地域振興課発行）

『でてこいランド通信・北海道ＮＯ．３』（北海道でてこいランド建設実行委員会発行・津別町）

『自治体議員のための政策研究室ニュースＮＯ．１』（代表・浪江けん）

＊ニュースレター第2号でご紹介しました『本ものの地方分権・地方自治－住民の努力が真の地方自治をつくる－誰もが自治体活動家に』の著者・浪江先生が、「自治体議員のための政策研究室」を自ら開設され、その機関誌を寄贈してくださいました。会員になれば、「官報速報」「市町村条例」「会員の議会報告」等の資料交流ができるようです。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

■会員の活躍■

・本学会運営委員でもある伊達市の中村恵子会員が、ゴミ資源化に貢献した人をたたえるリサイクル推進功労者表彰（リサイクル推進協議会主催）で通算大臣賞を受賞されました。おめでとうございます。

・同じく伊達市の中村会員より、去る11月28日に行われた伊達市「市民まちづくり研究会」主催「第6回生涯学習講座」に本学会代表運営委員の中島興世氏が「景観とまちづくり」と題して講演されたという新聞記事が送られてきました。記事には「中島さんは『市民一人一人が汗を流し取り組むことで、すてきなまちの景観をつくることができる』と住民本位のまちづくりを強調した」と記されており、北海道自治体学会の輪がたしかに地域に広がっていることがうかがえます。

■情報コーナーに会員の皆さんの参加を！■

・事務局では、会員の皆様からのホットな情報をお待ちしております。皆様方の所属する組織の「ニュース・会報」はもちろん。イベントの広報や「会員の活躍」、事務局への提案等など、なんでも結構です。郵送・ファックス・電子メールでどしどし送ってください。お願いします。

（電子メールは、Nifty-Serve VYC06550へ）

北海道自治体学会会員名簿（追録）

＊1996年1月～3月までに新たに入会された方です。この会員番号191番までの方々が1995年度会員の方です。

事務局からのお知らせ

・ニュースレター3号をお届けします。
1996年3月現在の会員数は、191名プラス2団体会員となりました。さらに来年度（1996年4月～1997年3月）からの入会希望も何人か届いています。北海道自治体学会への期待が日ましに高まっているといえるでしょう。

・前回お知らせいたしましたように、北海道自治体学会の事務局がある北星学園女子短期大学内田研究室に直通電話を設置いたしました。留守電機能も付いておりますので、不在の時はご用件とお名前だけでも録音いただければ幸いです。又、4月以降、教員採用試験をめざす研究生として4名の学生が入ってきます。内田研究室も日によってこれらの学生に占拠されることもあるかと思います。内田が不在の時は、学生が応対するかもしれませんがどうぞよろしくお願いします。

・本学会発足以来、事務局としてご活躍いただいた桑原隆太郎さん（北海道町村会）が、2年間の北大大学院法学研究科修士課程での研修を無事終了され、去る3月25日に修士（法学）の学位を授与されました。おめでとうございます。又、4月からは風連町役場に復帰され、札幌を離れられることになりました。事務局体制も大変痛手ですが、残った嶋田（南幌町教育委員会）と内田（北星学園女子短期大学）、また在札の運営委員の方々にお手伝いいただきがんばっていきたいと思います。さらに三坂会員（北海道町村会・北大大学院派遣）にも桑原さんの代わりに事務局をお手伝いいただく予定ですが、在札の会員の方で、事務局のお手伝いをしていただける方はご連絡ください。会員の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

・第3号のニュースレターは、いつもよりページ数が少なく、6ページとなりました。当初、11月3日のシンポジュウムの詳しい報告書を添付する予定でおりましたが、遅れておりまして誠に申し訳ありません。

・まだ1995年度会費未納の方は、必ず銀行振り込みで送金くださいますようお願いします。4月からは1996年度となりますので、早めに1995年度分の送金をよろしくお願いいたします。なお、1996年度の会費納入につきましては、ニュースレター第4号（6月発行予定）で改めてお願いいたします。

費振り込み口座　名義　北海道自治体学会
北海道銀行札幌駅北口支店　0703999

編集後記

3月15日、はじめての卒業生を送り出しました。わずか1年間のつきあいでしたが、私自身の思い入れも強く、卒業式の最中ハンカチで目をおさえていました。教え子のうち、一人は札幌圏の町役場に就職しました。又、二人がやはり札幌圏の町役場に臨時職員としてお世話になることになりました。関係会員の皆様には大変お世話になりますが、どうぞよろしくご指導ください。さらに、教職課程を履修していた学生のうち3人が地方（一人は後志管内・二人は十勝管内）の町立中学校で4月から教鞭を取ることになりました。この子たちにも「地域に根ざした教育」をはなむけとして送り出しましたので、関係会員の皆様との接点もでてくるかと思いますのでよろしくお願いいたします。また4月からは新しい学生が入ってきます。さらに研究生（3月に短大を卒業した学生です）も入ってきます。「超氷河期」と呼ばれる就職難の時代です。特に女性の就職は最悪な状態です。私は教え子の一人でも多くが、自治体職員や教員になってほしい、地域住民にとって「役立つ」人間になってほしいと考えています。どうぞ皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

北海道自治体学会もいよいよ2年目を迎えます。これからがその真価を問われる時だと思いますが、事務局として精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

内田和浩（北星学園女子短期大学）